

デーヴォ ガイド



2024.3.3-9

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

3日 月曜

ヨハネ



17:20 わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。

17:21 父よ。あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちのうちにいるようにしてください。あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるようになるためです。

17:22 またわたしは、あなたが下さった栄光を彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。

17:23 わたしは彼らのうちにおいて、あなたはわたしのうちにおられます。彼らが完全に一つになるためです。また、あなたがわたしを遣わされたことと、わたしを愛されたように彼らも愛されたことを、世が知るためです。

17:24 父よ。わたしに下さったものについてお願いします。わたしがいるところに、彼らもわたしとともにいるようにしてください。わたしの栄光を、彼らが見るためです。世界の基が据えられる前からわたしを愛されたゆえに、あなたがわたしに下さった栄光を。

17:25 正しい父よ。この世はあなたを知りませんが、わたしはあなたを知っています。また、この人々は、あなたがわたしを遣わされたことを知っています。

17:26 わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。あなたがわたしを愛して下さった愛が彼らのうちにあり、わたしも彼らのうちにいるようにするためです。」

必要があるほどに、汚れた場でもあります。そのようなこの世にいることは、弟子たちにとっては「一つになるため」であるというのです。

私たちが信仰が一つとなるためには、この世の雑音や妨げがないほうが良いように感じますが、そうではありません。むしろ困難があればあるほど、愛の共同体は一つになってゆくものなのです。そのような分かち合いでありましょう。そのように愛し合ひましょう。それゆえに、この世の困難を、神の恵みのゆえに前向きにとらえてゆきましょう。

そのような共同体は、困難によって一つになる神体験をするので、「信じ」また「知る」ことができるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

この世は苦難があり、また「きよめ分かたれる」



4日 火曜

ヨハネ



18:1 これらのことを話してから、イエスは弟子たちとともに、キデロン谷の向こうに出て行かれた。そこには園があり、イエスと弟子たちは中に入られた。

18:2 一方、イエスを裏切ろうとしていたユダもその場所を知っていた。イエスが弟子たちと、たびたびそこに集まっておられたからである。

18:3 それでユダは、一隊の兵士と、祭司長たちやパリサイ人たちから送られた下役たちを連れ、明かりとたいまつと武器を持って、そこにやって来た。

18:4 イエスはご自分に起ころうとしていることをすべて知っておられたので、進み出て、「だれを捜しているのか」と彼らに言われた。

18:5 彼らは「ナザレ人イエスを」と答えた。イエスは彼らに「わたしがそれだ」と言われた。イエスを裏切ろうとしていたユダも彼らと一緒に立っていた。

18:6 イエスが彼らに「わたしがそれだ」と言われたとき、彼らは後ずさりし、地に倒れた。

18:7 イエスがもう一度、「だれを捜しているのか」と問われると、彼らは「ナザレ人イエスを」と言った。

18:8 イエスは答えられた。「わたしがそれだ、と言ったのではない。わたしを捜しているのなら、この人たちは去らせなさい。」

18:9 これは、「あなたが下さった者たちのうち、わたしは一人も失わなかった」と、イエスが言われたことばが成就するためであった。

18:10 シモン・ペテロは剣を持っていたので、それを抜いて、大祭司のしもべに切りかかり、右の耳を切り落とした。そのしもべの名はマ

ルコスであった。

18:11 イエスはペテロに言われた。「剣をさやに収めなさい。父がわたしに下さった杯を飲まずにいられるだろうか。」

18:12 一隊の兵士と千人隊長、それにユダヤ人の下役たちは、イエスを捕らえて縛り、

18:13 まずアンナスのところに連れて行った。彼が、その年の大祭司であったカヤパのしゅうとだったからである。

18:14 カヤパは、一人の人が民に代わって死ぬほうが得策である、とユダヤ人に助言した人である。

神様はかつてご自身を表すのに「わたしは『わたしは在る』というものである」と言われました。これは何にも依存せずに、全く自立した絶対的な存在であることをあらわしています。それゆえユダヤでは、神の臨在を「わたしはある」ということばで表したのです。

イエス様が「わたしがそれだ」といわれたのは、ユダヤのことばでまさに「わたしはある」ということばです。すなわち「わたしは神である」と宣言なさったのと一緒です。兵士たちはその圧倒的な権威のもとに、立っていられなくなって、「あとずさりし、そして地に倒れた」のでした。

イエス様は翻弄され、全く無力のようでしたが、その根底にあるのは、このような絶対的な神の権威でした。ですから、ペテロの剣も計画を変えることはなく、また神に敵対する大祭司アンナスも「ひとりの人が民に代わって死ぬことが得策である」と、意図せずに正しい解釈をしたのでした。無力の中にも神の主権は変わらないということ信じましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 水曜

ヨハネ

18:15 シモン・ペテロともう一人の弟子はイエスについて行った。この弟子は大祭司の知り合いだったので、イエスと一緒に大祭司の家の中庭に入ったが、

18:16 ペテロは外で門のところに立っていた。それで、大祭司の知り合いだったもう一人の弟子が出て来て、門番の女に話し、ペテロを中に入れた。

18:17 すると、門番をしていた召使いの女がペテロに、「あなたも、あの人の弟子ではないでしょうね」と言った。ペテロは「違う」と言った。

18:18 しもべたちや下役たちは、寒かったので炭火を起こし、立って暖まっていた。ペテロも彼らと一緒に立って暖まっていた。

18:19 大祭司はイエスに、弟子たちのことや教えについて尋問した。

18:20 イエスは彼に答えられた。「わたしは世に対して公然と話しました。いつでも、ユダヤ人がみな集まる会堂や宮で教えました。何も隠れて話してはいません。

18:21 なぜ、わたしに尋ねるのですか。わたしが人々に何を話したかは、それを聞いた人たちに尋ねなさい。その人たちなら、わたしが話したことを知っています。」

18:22 イエスがこう言われたとき、そばに立っていた下役の一人が、「大祭司にそのような答え方をするのか」と言って、平手でイエスを打った。

18:23 イエスは彼に答えられた。「わたしの言ったことが悪いのなら、悪いという証拠を示しなさい。正しいのなら、なぜ、わたしを打つのですか。」



18:24 アンナスは、イエスを縛ったまま大祭司カヤパのところに送った。

18:25 さて、シモン・ペテロは立ったまま暖まっていた。すると、人々は彼に「あなたもあの人の弟子ではないだろうね」と言った。ペテロは否定して、「弟子ではない」と言った。

18:26 大祭司のしもべの一人で、ペテロに耳を切り落とされた人の親類が言った。「あなたが園であの人と一緒にいるのを見たと思うが。」

18:27 ペテロは再び否定した。すると、すぐに鶏が鳴いた。

この世は完全にイエス様の敵となりました。もう逃れることはできず、また弁護さえ許されない状況です。今は「あの人の弟子」であるということは、同罪を意味します。ペテロは自分のいのちを守るためには、ここでは「そんな者ではない」と否定するしかありませんでした。

イエス様の弟子として歩むことには、大きな報いの祝福が約束されていますが、それは後のペテロのように、聖霊によらなければ不可能なのです。

裏切ったペテロは後に、復活の主によって赦されて尊い使命が与えられました。さらにペンテコステの日に聖霊に満たされた彼は、強められてキリストの証人になりました。復活の希望と、聖霊の満たしによって、イエス様の弟子としての生き方を全うして、素晴らしい報いをいただきましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6日 木曜

ヨハネ

18:28 さて、彼らはイエスをカヤパのもとから総督官邸に連れて行った。明け方のことであった。彼らは、過越の食事が食べられるようにするため、汚れを避けようとして、官邸の中には入らなかった。

18:29 それで、ピラトは外に出て、彼らのところに来て言った。「この人に対して何を告発するのか。」

18:30 彼らは答えた。「この人が悪いことをしてなければ、あなたに引き渡したりはしません。」

18:31 そこで、ピラトは言った。「おまえたちがこの人を引き取り、自分たちの律法にしたがってさばくがよい。」ユダヤ人たちは言った。「私たちはだれも死刑にすることが許されていません。」

18:32 これは、イエスがどのような死に方をするかを示して言われたことばが、成就するためであった。

18:33 そこで、ピラトは再び総督官邸に入り、イエス呼んで言った。「あなたはユダヤ人の王なのか。」

18:34 イエスは答えられた。「あなたは、そのことを自分で言っているのですか。それともわたしのことを、ほかの人々があなたに話したのですか。」

18:35 ピラトは答えた。「私はユダヤ人なのか。あなたの同胞と祭司長たちが、あなたを私に引き渡したのだ。あなたは何をしたのか。」

18:36 イエスは答えられた。「わたしの国はこの世のものではありません。もしこの世のものであったら、わたしのしもべたちが、わ



たしをユダヤ人に渡さないように戦ったでしょう。しかし、事実、わたしの国はこの世のものではありません。」

18:37 そこで、ピラトはイエスに言った。

「それでは、あなたは王なのか。」イエスは答えられた。「わたしが王であることは、あなたの言うとおりです。わたしは、真理について証しするために生まれ、そのために世に生まれました。真理に属する者はみな、わたしの声に聞き従います。」

18:38 ピラトはイエスに言った。「真理とは何なのか。」こう言うってから、再びユダヤ人たちのところに出て行って、彼らに言った。「私はあの人に何の罪も認めない。」

18:39 過越の祭りでは、だれか一人をおまえたちのために釈放する慣わしがある。おまえたちは、ユダヤ人の王を釈放することを望むか。」

18:40 すると、彼らは再び大声をあげて、「その人ではなく、バラバを」と言った。バラバは強盗であった。

ユダヤ人たちがピラトに迫り決断させることによって、死刑とそれに関わるすべての預言が成就しました。神様の計画は、敵の身勝手な行動さえも用いて実現するのです。

ピラトは神の国とこの世の国を混同しました。また保身のためのことなかれ主義によって、神の敵となってしまう。真理のため、主のためならば、自分の立場を悪くしてでも立ち向かうべきときがあります。自分の行動がピラトのようになっていないか、本当の勇氣を持って行動しているか、吟味してみましょう。

バラバは、イエス様が死刑になることによって、自分が助かりました。私たちの姿です。自分本来は裁かれるべき者であったことを、忘れないで

いきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 金曜

ヨハネ



19:1 それでピラトは、イエスを捕らえてむちで打った。

19:2 兵士たちは、茨で冠を編んでイエスの頭にかぶらせ、紫色の衣を着せた。

19:3 彼らはイエスに近寄り、「ユダヤ人の王様、万歳」と言って、顔を平手でたたいた。

19:4 ピラトは、再び外に出て来て彼らに言った。「さあ、あの人をおまえたちのところに連れて来る。そうすれば、私にはあの人に何の罪も見出せないことが、おまえたちに分かるだろう。」

19:5 イエスは、茨の冠と紫色の衣を着けて、出て来られた。ピラトは彼らに言った。「見よ、この人だ。」

19:6 祭司長たちと下役たちはイエスを見ると、「十字架につける。十字架につける」と叫んだ。ピラトは彼らに言った。「おまえたちがこの人を引き取り、十字架につけよ。私にはこの人に罪を見出せない。」

19:7 ユダヤ人たちは彼に答えた。「私たちに律法があります。その律法によれば、この人は死に当たります。自分を神の子としたのですから。」

19:8 ピラトは、このことばを聞くと、ますます恐れを覚えた。

19:9 そして、再び総督官邸に入り、イエスに「あなたはどこから来たのか」と言った。しかし、イエスは何もお答えにならなかった。

19:10 そこで、ピラトはイエスに言った。「私に話さないのか。私にはあなたを釈放する権威があり、十字架につける権威もあることを、知らないのか。」

19:11 イエスは答えられた。「上から与えら

れていなければ、あなたにはわたしに対して何の権威也没有せん。ですから、わたしをあなたに引き渡した者に、もっと大きな罪があるのです。」

19:12 ピラトはイエスを釈放しようと努力したが、ユダヤ人たちは激しく叫んだ。「この人を釈放するのなら、あなたはカエサルの友ではありません。自分を王とする者はみな、カエサルに背いています。」

19:13 ピラトは、これらのことばを聞いて、イエスを外に連れ出し、敷石、ヘブル語でガバタと呼ばれる場所で、裁判の席に着いた。

ピラトはイエス様を痛めつけば、それでユダヤ人たちの気が済むと思ひ、鞭打ちにします。しかし人間的な思ひつきでは人は変わることはありません。あくまでも「十字架につける」との叫びは収まりませんでした。

人は聖霊によらなければ、イエスをキリストと告白することはできません。すなわち救い主として信じることはできないのです。またクリスチャンも聖霊によらなければ、人格に実を結ぶことはできません。聖霊によらずに、感情だけをなだめようとしても無益ですから、聖霊を求めましょう。

さらにピラトのように、鍵を握る人が自分を守ることに終始していたら、事態が収まるどころかますます悪くなります。この時点で、ピラトには「何の権威も」ないのです。

聖霊による権威を主からいただいで、解決に臨みましょう。イエス様は全く弱い立場におかれながらも、その権威によって神のご計画を全うしたのです。

ピラトはイエス様を痛めつけば、それでユダヤ人たちの気が済むと思ひ、鞭打ちにします。しかし人間的な思ひつきでは人は変わることはありません。あくまでも「十字架につける」との叫び

は収まりませんでした。

愛のゆえに自ら弱くなられたイエス様にこそ権威があることを覚え、イエス様の救いにこそ人を変える力があることを覚えて、人生の決断をしてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願ひなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



8日 土曜

ヨハネ



19:14 その日は過越の備え日で、時はおよそ第六の時であった。ピラトはユダヤ人たちに言った。「見よ、おまえたちの王だ。」

19:15 彼らは叫んだ。「除け、除け、十字架につけろ。」ピラトは言った。「おまえたちの王を私が十字架につけるのか。」祭司長たちは答えた。「カエサルのほかには、私たちに王はありません。」

19:16 ピラトは、イエスを十字架につけるため彼らに引き渡した。彼らはイエスを引き取った。

19:17 イエスは自分で十字架を背負って、「どくろの場所」と呼ばれるところに出て行かれた。そこは、ヘブル語ではゴルゴタと呼ばれている。

19:18 彼らはその場所でイエスを十字架につけた。また、イエスを真ん中にして、こちら側とあちら側に、ほかの二人の者を一緒に十字架につけた。

19:19 ピラトは罪状書きも書いて、十字架の上に掲げた。それには「ユダヤ人の王、ナザレ人イエス」と書かれていた。

19:20 イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。それはヘブル語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。

19:21 そこで、ユダヤ人の祭司長たちはピラトに、「ユダヤ人の王と書かないで、この者はユダヤ人の王と自称したと書いてください」と言った。

19:22 ピラトは答えた。「私が書いたものは、書いたままにしておけ。」

12 節「(皇帝) カイザルにそむく」という言葉を出されて、ピラトは苦渋の選択をしました。「イエスは十字架につけるために彼らを引き渡した」のです。彼はイエスを助けたいと思っていましたが、それは真理のためや神のためではなく、ただことを荒立てたくなかっただけなのです。

自分さえがまんすれば丸く収まるからがまんするのも、美德のようではありませんが、真理のため神様のために勇気をもって決断しているかが問われます。

イエス様はそのような気の弱い支配者に翻弄されるのですが、神様のご計画とその主権は変わらないことがわかります。「ユダヤ人の王」というのは、すなわち旧約に預言されたキリストであることを意味しますし、ヘブル語、ラテン語、ギリシア語で書かれたということは、ユダヤ人、ローマ人、ギリシア人という当時世界を代表する文化に対して、それぞれの救い主であるということが暗に表されているのです。

カイザルのようなこの世の権力よりも、偉大な神の全能に沿っていく勇気を持ち、永遠に変わらない希望を見ながら、決断しつつ歩みましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



19:23 さて、兵士たちはイエスを十字架につけると、その衣を取って四つに分け、各自一つずつ渡すようにした。また下着も取ったが、それは上から全部一つに織った、縫い目のないものであった。

19:24 そのため、彼らは互いに言った。「これは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」これは、「彼らは私の衣服を分け合い、私の衣をくじ引きにします」とある聖書が成就するためであった。それで、兵士たちはそのように行った。

19:25 イエスの十字架のそばには、イエスの母とその姉妹、そしてクロパの妻マリアとマグダラのマリアが立っていた。

19:26 イエスは、母とそばに立っている愛する弟子を見て、母に「女の方、ご覧なさい。あなたの息子です」と言われた。

19:27 それから、その弟子に「ご覧なさい。あなたの母です」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分のところに引き取った。

19:28 それから、イエスはすべてのことが完了したのを知ると、聖書が成就するために、「わたしは渇く」と言われた。

19:29 酸いぶどう酒がいっぱい入った器がそこに置いてあったので、兵士たちは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソブの枝に付けて、イエスの口もとに差し出した。

19:30 イエスは酸いぶどう酒を受けると、「完了した」と言われた。そして、頭を垂れて霊をお渡しになった。

「十字架につけると」と、聖書では簡潔に書かれています。十字架刑は体に釘が打たれるだけでも激しい痛みですが、それだけではありません。体を貫

通した釘に体重がかかって、激痛と大量の出血が起きます。また肩にかかる力によって、呼吸困難になり、恐ろしい苦しみが襲います。肩の関節や肋骨も歪み、はずれたことでしょう。イエス様は全身から血を噴き出させながら、体を激しく震わせたと思われます。そのような状況で以下にある出来事が起きました。

「下着」とは一枚の大きなもので、物資の乏しかった当時は、一生大切に着るものでした。多くは息子が12歳で成人するときに、母が愛情と祈りを込めて織ったそうです。それを面白がってくじを引くほどに、イエス様は嘲弄されたのです。さらにはそれを見ていた「イエスの母」マリアは心が張り裂けるほどだったでしょう。そのような苦しみさえ聖書に預言されていたのです。それは私たちを救うための神様のわざです。それほどにその愛は大きいということです。

またイエス様は耐え難い激痛の中で、母マリアの今後を心配して、ヨハネに「息子」として面倒をみるように願いました。願いというよりは、ヨハネなら喜んでそうしてくれるという、信頼に満ちた宣言でもありました。

イエス様の心の中にはどんな状況でも、人に対する愛があるのです。イエス様は人としての弱さを持った状態で、そのように生きたのですから、私たちにも聖霊によってそれが可能であることを知って、主のために生きたいと願う人はそれを希望にしましょう。自分の愛を過小評価しないで、大胆に人を愛しましょう。

またイエス様からそのような無限の愛で愛されている自分の価値に感謝しましょう。何といてもイエス様の愛に感謝しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

